

IV 海生哺乳類化石の発見、 発掘、クリーニングの記録

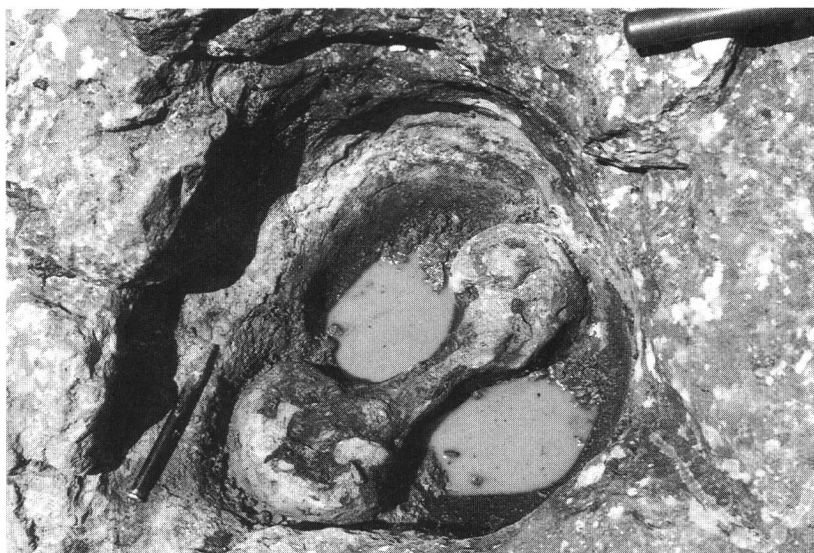
——クジラ・オオカイギュウ・セイウチ——

1、第1次発掘【1973年（昭和48年）～1975年（昭和50年）】

高郷村の阿賀川沿いの塩坪層からは、1935年（昭和10年）野村七平の貝類化石の発見、記載をはじめとし、1941年（昭和16年）大塚弥乃助によって、これらの化石に「耶麻化石動物群」（31ページ）の名称がつけられ、以後多くの化石が発見されています。ところが、この耶麻化石動物群以外に新しい化石が加わることとなります。これが第1次発掘によって発掘された哺乳類動物化石（クジラ）です。この発掘は若女高の小林を中心に行われました。

1973・9・23 この日 会津若松市では「会津祭」とあって、参加生徒らはブツブツいいながら、塩坪橋下の浸食河岸段丘のポットホール調査中、ポットホールの縁に奇妙な化石を発見、急拠、村の店屋からツルハシを借り、4時間かかって難航のすえ、やっと人頭大の化石を発掘する。塩坪層よりの哺乳類化石発見の第1号となる。

1974・6・2 ポットホール調査中、再び奇妙な化石を発見する。前回の発見地点より、やや上流段丘面。四足動物の肢骨の一部と思われた。



ポットホール（おう穴）の中に残るクジラの肢骨の化石